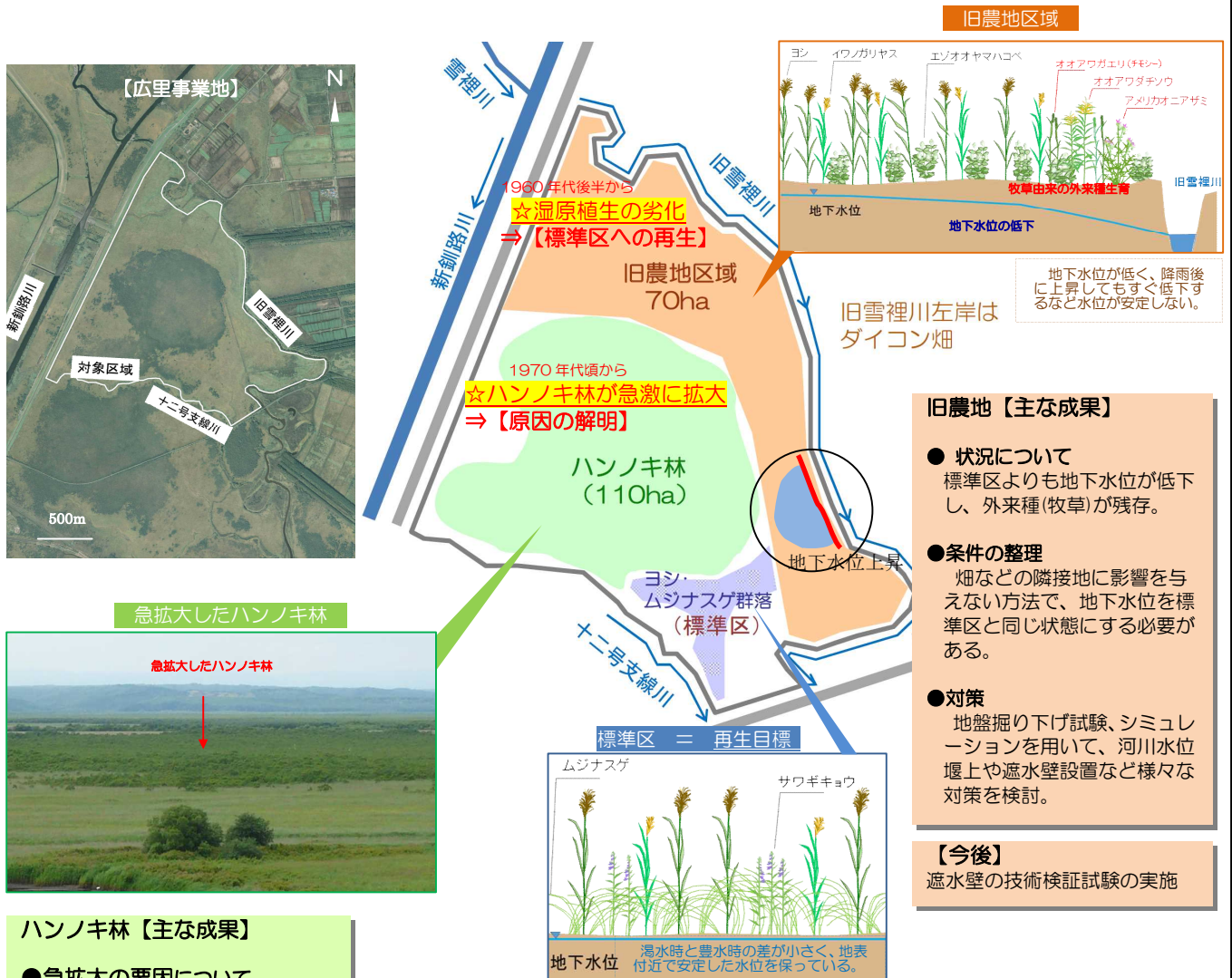


広里地区での湿原再生【ハンノキ林急拡大要因説明、旧農地の再生】

広里地区では、急拡大したハンノキ林の要因の説明と、未利用地となった農地の植生を 1960 年代後半以前（広里地区標準区）の姿へ再生するための手法について検討しています。

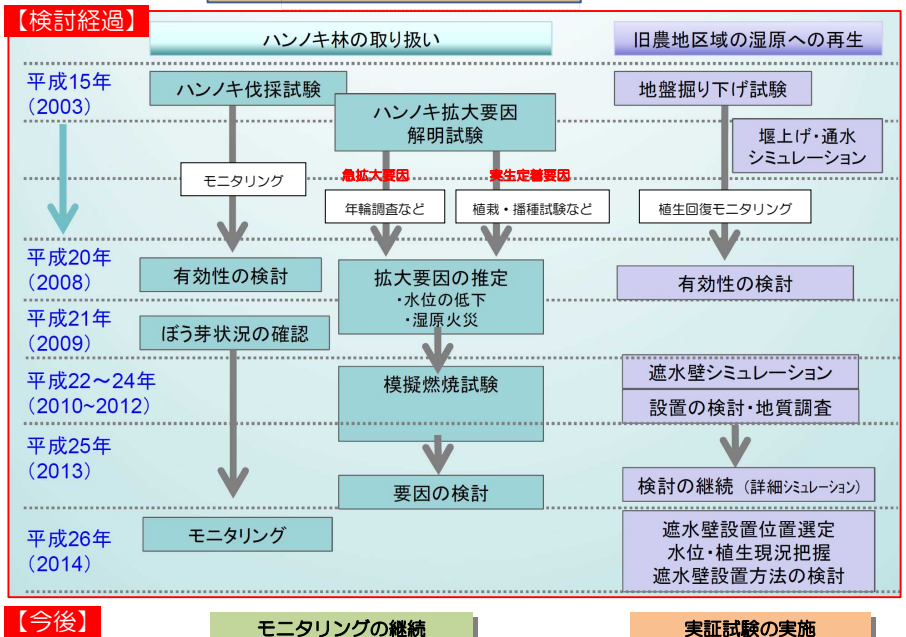


ハンノキ林【主な成果】

- 急拡大の要因について
築堤や流路改変（1930 年代）による水位低下などの水環境の変化に加え、湿原火災（1967 年）がきっかけで一時的にハンノキの種子が育ちやすい環境となり、急拡大したと推定。
- 状況について
種子による更新はなく、ぼう芽更新のみで、新たな個体無し。長期的には衰退傾向。
- コントロール手法について
伐採により樹勢を弱らせ、ぼう芽更新を抑えることで、ハンノキ林を減らす事ができることを確認。

【今後】 モニタリングの継続

※ ハンノキ林の拡大原因は様々であり、ここでの検討結果は、広里地区に関するものです。



広里地区自然再生のスケジュールの見直しについて

	当初スケジュール	変更スケジュール	現在の変更 スケジュール
H27	実施設計 植生調査等	実施設計	実施設計
H28	遮水壁試験施工 (実証試験開始)	植生調査等	土質調査 (電気探査、ボーリング)
H29	モニタリング	遮水壁試験施工	植生調査等 遮水壁試験施工
H30		モニタリング	モニタリング